

学校教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～ 自律と自立 ～	経営理念	「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、生徒の自律・自立を支援する。 ～ この学校で学んでよかったと思える学校づくり ～
--------	--------------------------------	------	--

評価計画							自己評価				学校関係者評価		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							8月	2月						
学習指導	1	確かな学力の定着	自主的な学習態度の育成	・単元開発に係る授業研究の 全員実施	・授業研究の実施状況 ・生徒意識調査	全員 実施 85% 以上	・意欲的 84.8% ・寮で 復習 83.1%	・意欲的 90.4% ・寮で 復習 82.1%	・意欲的 106.3% ・寮で 復習 96.6%	3	後期入所の生徒を除いて集計すると、目標値を上回った。基本的な生活習慣の定着により、学習態度も向上しているといえる。また、「意欲的に取り組めるように工夫されている」という項目では、全員の集計で93.2%という肯定的評価であり、生徒に授業の工夫が伝わっていると考えられる。単元開発に係る授業研究は、2月で全員実施見込み。	B	単元開発で生徒に力をつけてほしい。	生徒の実態に合わせた単元開発を行う。
			わかる授業づくりの推進	・UDを取り入れた授業の徹底	・生徒授業肯定的評価	85% 以上	・よくわかる 91.7% ・自信を持つ 90.6%	・よくわかる 95.3% ・自信を持つ 91.0%	・よくわかる 112.1% ・自信を持つ 107.1%	4	全員の集計で、目標値を大きく上回る肯定的評価が得られた。授業により、生徒のほとんどもが、学習内容が分かったと感じていることが分かる。今後もUD化を進めていくとともに、学習意欲を向上させて、上記の、自主的な学習態度の育成につなげたい。	A	UD化をさらに進めてほしい。	継続して取り組んでいく。
			学習規律の徹底	・大きな声での挨拶、立腰の定着	・生徒意識調査	85% 以上	挨拶 94.5% 立腰 88.9%	挨拶 90.5% 立腰 71.4%	挨拶 106% 立腰 84%	3	挨拶については目標値を上回る結果となっている。しかしながら立腰は月間目標などで取り組んでいるが数値が低い状況である。これは、授業を受ける際は正しい座り方を意識できているが、ノートへの記入や本を読む際の姿勢が安定していないことを児童生徒が否定的にとらえているものであると考えられる。	B	教員側の評価も合わせ目標値を考えてほしい	評価項目の中に教員のアンケート結果を取り入れる。
生徒指導	2	社会に通用する生徒の育成	東広島スタンダードの徹底	・月間目標の設定と評価の工夫	・生徒意識調査	85% 以上	挨拶 100% 返事 88.9% 言葉 83.3% 履物 94.4%	挨拶 85.7% 返事 90.5% 言葉 90.5% 履物 90.5%	挨拶 100% 返事 106% 言葉 106% 履物 106%	4	全体としての達成値は前期と比較すると下がっている。これは、アンケート実施時に入園の時期が近い生徒や処遇が重なっていた児童生徒(4名)が肯定的評価ができていないことが原因とみられる。上記の児童生徒を除いた数値を見てみると、概ね95～100%の達成値になっている。基本的な取り組みについては多くの生徒が積極的に取り組んでいる。	A	あいさつは昨年度より頑張っている。	継続して取り組んでいく。
			体験活動の充実	・総合的な学習の時間の充実	・生徒意識調査 ・教職員意識調査の実施	85% 以上	96%	100%	118%	4	生徒アンケートから「地域や他校の人と活動したり、話を聞いたりするなどの体験的な活動をする中で自分は成長できていると思います。」の肯定的意見が96%であった。また、できることが増えた生徒が6人、コミュニケーション力が向上した生徒が6人であった。前期以上にいろいろな取り組みを行ったことで、肯定的評価がすべての項目で90%以上をこえ、すべての項目を肯定的評価を平均すると95%以上であり、かなりの成果が上がったといえる。	A	梅の実収穫行事など体験活動を継続してほしい。	継続して取り組んでいく。
			部活動の充実	・関わりきる指導 ・広島学園との連携	・生徒意識調査 ・教職員意識調査の実施	80% 以上	100%	90.5%	113.0%	4	肯定的評価を行っている児童生徒は、21人中19名と多くが目標をもって記録の更新に取り組むなど意欲的に部活動に臨んでいる。残りの2名は入所1週間の時点でアンケート実施したり、処遇明けで実施するなどの児童生徒であり、生活が安定していない状況が影響していると考えられる。	A	昨年度にない項目で先生が頑張られていた。	継続して取り組んでいく。
信頼される学校	3	関係機関連携の充実	広島学園との連携の充実	・窓口の明確化 ・各種計画の共有 ・連携資料の活用 ・合同研修等の実施	・教職員及び学園職員意識調査	90% 以上	教職員 89% 学園職員 72%	教職員 95.5% 学園職員 70.8%	教職員 106% 学園職員 79%	2	教職員では、概ね連携が取れていると思っているが学園職員では、「授業や学習に関する連携や生徒指導に関する連携」の肯定的評価が低く、その差が大きい。このことは、気づき等からもわかるように、どこまで指導しているのか教職員と学園職員間で共通理解が不十分であることに起因する。教職員と学園職員の担当者とT、Tの指導の在り方を再確認する必要がある。	B	広島学園と学校が定期的に連携し、考えをすりあわせていたなどの工夫してほしい。	学校と広島学園の担当者が定期的に連携の状況を確認しあうとともに生徒にどんな力が必要か共有する。
			原籍校との連携の充実	・原籍校連絡協議会の充実 ・組織的かつ計画的な連携	・連携に係る原籍校の意識調査実施	調査実施	調査実施	100%	80%	3	6月と12月の原籍校連絡会や11月の3年四者懇談会では100%の出席率だった。全体会では、学園と学校の取り組みを理解していただき、個別協議では現状をふまえた今後の見通しについて情報共有する中で、よく連携することができた。連絡会と連絡会の間のふだんの子どもの状況についての情報提供の充実を図る必要がある。	A	目標値が設定されていなかったが、進路状況から判断した。	今年度の調査アンケートの項目から達成値を設定する。